

令和7年度 学校自己評価システムシート（清和学園高等学校）

目指す学校像	通信制・単位制の特性を最大限に活用し、「行うことによって学ぶ」の建学精神を礎に生徒の具体的な目標に合わせて、一人ひとりの夢や希望を叶える学校を目指す。
--------	---

重点目標	1、誠実な心を育てると共に挨拶の励行と基本的生活習慣の確立 2、基礎学力の更なる向上と生徒の無限の可能性を引き出す・ 3、資格・検定取得の推奨と部動の推進
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。		
出席者	学校関係者 生徒 事務局(教職員)	2名 3名 2名

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標					年 度 評 価（ 2 月 1 6 日 現 在 ）		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	- 通信制高校という特性から様々な学習歴を持った生徒が入学してくるが、その多くは、基礎的学力が身に付いておらず、その上、挨拶や身の回りの整理整頓もできない生徒が多くいるので、基本的生活習慣の改善が常に課題である。 - 近年不登校生徒の割合と特性を持った生徒数が多くなっているのでそうした生徒に対応できる学内体制が課題である。	- 基礎学力の向上を目指した工夫や改善がみられたか。 - 教師自ら率先して挨拶や声かけができたか。 - 整理整頓が年間を通してできたか。 - 特性のある生徒にきちんと対応できたか。	- 週2日間で5時間、基礎学力の向上と題して、教科別スクールを実施。学び直しを毎週実施する。 - 朝の SHR や帰りの会等で教師の積極的な声かけと現場指導を徹底し、ロッカーの整理整頓を各クラスで「見える化」する。 - 一日一回は特性のある生徒に声掛けを実施する	- 校舎内で挨拶が進んでできているか。 - 教科別スクールに積極的に参加を呼びかけているか。参加していない生徒の指導が十分できたか。 - 実習服の整理整頓や教科書の持ち帰りの個別指導ができたか。	- 教科別スクールへの評価を月1回実施し、その結果不登校の生徒の出席率が前年度より良好になりつつある。 - 教師個々の声かけにより、整理整頓や、ロッカー指導は、成果があった。 - 普段おとなしい生徒も教師や来校者にも挨拶ができつつある。	B	- 不登校生徒へは個別指導を繰り返してはきたが、登校できない生徒をいかに登校させて指導できるかが課題である。 - 基礎学力向上の為、週に2時間国・数・英については学習時間を増やしたことにより、基礎学力は定着しつつあるが、自主的な学びということもあり、参加人数をどう増やしていくかが課題でもある。
2	- 三観点を取り入れたアクテブラニングを取り入れた一段深い学びを実現する難しさに直面している。 - 主体的・対話的で深い学びの推進にICT等を活用して通信制高校としてどのように取り組むかが課題である。	- 各教科によって単位習得率が異なる中、指導内容の改善や工夫がみられたか。 - 生徒主体のスクーリングができるような教材や実習の工夫があるか。	- 特に英・数といった苦手教科については、副教材の「ラスパ・ラルボ」を中心にスモールステップで個別指導の徹底を図る。 - 実技以外でも、教室でのスクーリングも ICT を活用し、生徒が主体的に取り組める活動を展開。	- 副教材を使用しての個別対応の中で能力別プリント作成を実施することができたか。 - 実習・実験の事前準備や視聴覚教材等の積極的な活用ができているか。 - マイスター・ハイスクール授業との関連づけができたか。	- 個別対応の学習プリントも全教科で作成できるよう取組む。 - 生徒主体のアクティブラーニングの取組を全教科で実施できるようにする。 - レポートも教科によっては、マイスター・ハイスクールに関連付けられた教科もある。	B	- 単位習得率も全体として上がっては来ているものの、全体では95パーセント以上を目指し、保護者からの信頼を高めるよう心がける。 - アクティブラーニング研修会への積極的に参加。 - マイスター・ハイスクール事業も三年目となり、生徒の自主的な活動は深まってきた。
3	- 本校は通信制高校では、全国唯一、国家資格の取得できる自動車科・調理科がある。特に自動車科の合格率100%を目指す。 - 資格演習では一つでも上位の資格を目標にする。	- 毎年3月に実施される自動車整備士の国家試験の合格率を上げることができたか。 - 検定試験において一つでも多くの資格に合格することができたか。	- 自動車科においては、1月より国家試験対策を実施。生徒をABCの3段階に区分し個別指導と分かる生徒が先生役になる新しい取り組みの実施。 - 資格演習と教科別スクールの中でも検定試験対策を実施。	- 個に応じた学習計画を推進することができたか。 - 教師自らの自作問題で個別指導ができたか。 - 新しい取り組みとして分かる生徒がわからない生徒に教えることができたか。	- 今年度も合格率はまだ発表になっていない今年度は二名合格できない生徒が出てくる可能性がある。 - 資格取得では、昨年以上の結果を残すことができた。	B	- 今年度の合格率の現状を把握して、来年度に生かせる指導の取組の実施。 - 教師の自作プリントの申し送りと、個別指導での基礎学力の徹底を図る。

学 校 関 係 者 評 価
実施日 令和8年2月24日
学校関係者からの意見・要望・評価等
- 今年度は本校初の文化祭を生徒の発案で開催することができ生徒の挨拶やマイスター・ハイスクール授業の成果発表もできとてもよかったと思う。部活動についても軟式野球部・ソフトテニス部・卓球部が全国大会に出場することができた素晴らしかった。 - 挨拶についても、どの生徒もよくできるようになってきていると思う。今後も継続できればと思う。
- 単位習得率の向上は学校の信頼も高めることになることから、今後も努力して頂きたい。 - 生徒主体のアクティブラーニングの取り組みはどこの学校でも実施されていると思われるが、通信制高校の特色を生かしたものにしてもらいたい。 - マイスター・ハイスクールでの調理科のチョコレートプロジェクトや自動車科の技能コンクールなど生徒の活躍が目立った年度であった。
- 県内に国家資格の取得できる自動車科なので合格率もみんなが注目していると思う。期待に応えられるよう取り組んでほしい。 - 各種資格取得が就職にも有利になると思われるので、先生方から更なる生徒への呼びかけも必要になるのではないか。